

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300823
法人名	有限会社 サフラン
事業所名	グループホーム ヴィラ サフラン
訪問調査日	平成22年3月17日
評価確定日	平成22年5月6日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月23日

【評価実施概要】

事業所番号	4670300823
法人名	有限会社 サフラン
事業所名	グループホーム ヴィラ サフラン
所在地	鹿児島県鹿屋市郷之原町12584番地 (電話) 0994 - 42 - 7220

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成22年3月17日	評価確定日	平成22年5月6日

【情報提供票より】(22年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 12 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 4 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	8.6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	1日 400 円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	900 円		

(4) 利用者の概要(2月15日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低 74 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白浜外科 小林クリニック 武田歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは見晴らしの良い自然環境の整った高台に利用者同士、ともに支え合い、それぞれの個性、能力を發揮しながらサフランの花言葉どおり、「歓喜のある生活」を送っている。利用者の中には介護プランの実践によって、要介護4から要介護1に改善された例もあり、職員の励みになっている。調理専門のシルバー人材センター職員を採用、透析患者の食事管理もできている。地域とホームが共に協力し合い、自然な形で地域密着型サービス運営が出来ている。管理者・職員は利用者の発した「やさしい声掛けが何よりのご馳走」の言葉をかみしめ、きめ細かいケア、寄り添うケア、心のケアを日々心がけ実践している。ターミナルケアにも取り組み、多様化するニーズにも積極的に対応している。運営者の利用者・家族に対する優しい気配りが随所に見られるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は指摘されていないが、より質の高いサービス提供に向け運営者・管理者・職員一体となって取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員、自己評価に取り組んでいる。全員の自己評価をもらって管理者がまとめている。職員の自己評価から個々の思いや工夫などがわかり、管理者の学びにもなっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に町内会長、老人会長、民生委員、家族代表、利用者代表、行政職員、ホーム職員も交替で参加し、開催されている。ホーム便りに掲載し、家族にも啓発し、会の理解が得られている。会の話し合いの中で「面会時、職員の名前が分からない。」との意見があり、写真つきで掲示し、本日の勤務者、明日の勤務者の表示を行って、サービス改善に至った。利用者の生活状況報告、サービス内容、評価への取り組み状況などの報告もしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居契約時に苦情の方法や関係機関について説明を行い、重要事項説明書にも示している。ホームの玄関内に「お気付き箱」を設置し気軽に意見を貰い、結果を個人記録に記載し、運営に活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域で行われる慰霊祭に参加したり、夏祭り、敬老会、クリスマス会には地域の方を招待し楽しんで貰っている。ボランティア、小・中学生の体験教室の受け入れ、隣接のデイサービス利用者との交流もオープンに出来、昔なじみの方と関わりができています。地域の方にホームの大型バスを送迎用に貸し出したり、隣接のホールを開放し、率先して交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内掲示板に大きく理念を掲示し、利用者・面会者にも確認できるよう工夫している。管理者・職員はスタッフ会議などを通じ、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地域行事に参加したり、夏祭り、敬老会、クリスマス会には地域の方を招待している。ボランティア、小・中学生の受け入れ、隣接のデイサービス利用者との交流も行い、事業所もオープンにし、大型バスや隣接のホールを地域に貸し出すなど、交流が出来る。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価終了後は職員間でカンファレンスを行い具体的な改善に取り組んでいる。運営推進会議でも結果を報告し、家族にも外部評価を配布している。玄関にも閲覧できるように置いてある。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の生活状況報告とサービス内容評価への取り組み状況について報告し、参加者から意見を貰いサービス向上に活かしている。会の内容についてはホーム便りに掲載し、家族にも啓発を図り、運営推進会議を理解してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターが中心となり連絡会ができています。連絡会に市の担当者も参加し意見交換をしています。日頃から市や地域包括センターに出向き、相談したり、ホーム便りも届けるなどして連携を保っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホーム便りを発行して、利用者の日々の様子や行事、健康状態、職員の異動などを報告している。金銭管理については出納帳で管理し、毎月末に郵送報告している。自己管理できる利用者もいる。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居契約時に苦情の窓口や関係機関について説明を行い、重要事項説明書にも明示している。ホームの玄関内に「お気付き箱」を設置し気軽に意見を出してもらい、結果を個人ファイルに記載し、次回面会時に報告するなど、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なじみの関係の大切さを理解し、職員の定着率を高める為、勤務も柔軟に対応し、働きやすい環境作りに努めている。やむを得ず異動や離職があれば新任職員が早くなじみの関係ができるよう、専任職員をパートナーとして付けた勤務表を作成し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し段階に応じた研修を受講している。外部研修は職員全員が交互に参加している。研修後は研修報告書を作成し、知識を共有している。法人内研修は月1回、ホーム内研修は月2回、夕方実施し、時間外手当もあり職員の自己啓発にもなっている。資格取得にも意欲的にチャレンジできる体制ができています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホームの連絡協議会に加入しネットワークを通じて勉強会、事例検討会などを実施している。また、相互訪問などの活動しながらサービスの質の向上を目指す取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事前に自宅や病院などに出向いて面談し、利用者や家族のホーム見学などを通じて納得した上での入居を原則としている。職員や他の利用者と早くなじめるよう家族と相談しながら環境作り、雰囲気作りを工夫している。法人内の配食サービス、デイサービスなどの関わりもあって以前から顔なじみの利用者も多い。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者はツワブキの皮むき、味噌作り、バラの花びらでポプリ製作など、できる力を発揮している。職員は利用者と一緒に過ごす時間を多く持ち、過ごす時間の中で喜怒哀楽とともに人生談を聞き、学び・教えてもらいながら、支え合う関係を築いている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々生活する中で利用者の気持ち、状況をしっかりと感じとるようにしている。困難な場合でも、利用者本位にあらゆる方法を模索、検討しながら思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は本人や家族の意向を把握し、日々の暮らしの様子などを関係者と情報交換し、リハビリプログラムや地域の中で住民と交流をもちながら、利用者主体の暮らしを反映した計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>日々の状況を把握し、1ヵ月毎、モニタリングや評価をし、定期的な介護計画の見直しに活かしている。心身の状況変化に応じ随時、関係者などと協議し現状に即した新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の意向や状況に応じ、通院支援や趣味仲間との交流、なじみの場所の訪問、併設のデイサービスとの交流など、柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の納得が得られたかかりつけ医と信頼関係を築いており、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	内容を細かく明記し、家族にも分かりやすい事業所独自の対応指針を作成している。入居時に本人、家族に説明し同意書をとっている。職員も方針を共有し、終末期は段階的に話し合いを持ち、家族、親戚、主治医、訪問看護師などと連携し、チームケアで支援している。看取りケアの実施例もある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねることのないように、生活歴をくみ取り、言葉かけや対応など尊厳を守るケアを大切にしている。利用者の声のトーンで排泄のサインがわかるなど関わりを大事にしている。写真掲載の同意や個人情報保護についての誓約書もとっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムを保ちながら個々のペースを大切に、個々の希望に沿った自由な生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と献立について話し合い、一人ひとりの嗜好を取り入れ食事を楽しみながら満足感も味わってもらっている。職員は利用者の能力に合わせ、一緒に準備、食事、片付けをしている。バーベキュー大会やちゃんこ鍋など居酒屋からのさしいれを楽しむこともある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日出来るように準備し、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。オムツ使用者は毎日入浴支援、足浴も実施している。週1～2回はデイサービスの大浴場を利用し、楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	今まで暮らしていた地域へ出かけたり、趣味活動への参加や針仕事など力を活かした役割、3B体操、マジックショー、カラオケ、ハーモニカ演奏、フラダンスショーなどを楽しんでいる。また、ドライブや買い物、花見に出かけるなど、気晴らしの支援も実施し、ホームの中だけに留まらない生活を実践している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりの希望に沿って自由に外出の支援を行っている。散歩、施設の飼い犬とのふれあい、買い物、手芸クラブ、墓参りなど利用者の希望に沿って戸外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけた生活は身体拘束と同様の弊害であることなど、運営者・管理者・職員全員が理解しており、鍵をかけないケアに取り組み、自由な生活を支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に基づき年2回、夜間想定訓練を行い、職員が必ず夜勤者になって実施している。火災報知機、火災通報システム、消火器、スプリンクラーも設置され、自家発電システムもある。近隣の住民の協力も得ており、食品・飲料水の備蓄もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの状況に応じ、食事・水分摂取量の把握やきざみ、お粥食など食事形態も工夫している。体重測定を月1回実施している。定期的に法人の栄養士から栄養バランスなどの助言も得ている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木をふんだんに使った広々とした開放感のあるダイニング、リビングからは外の景色が一望に見渡せ、季節感・生活感を取り入れ、居心地よく過ごせる共用空間になっている。リビングからウッドデッキに出入りでき、夏場はバーベキューを楽しむことが出来る。ホールには利用者の作成した籠が飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やテレビ、携帯電話、鏡や化粧品など、個人のなじみの持ち物が持ち込まれている。利用者の個性ある暮らしやすい住まいとなっている。		